

輝け！シン尾花沢中

第179号
令和8年
2月5日

たたえるほほの あかるさよ ああ光よぶ 学びやに

海杜さん、次に繋げる攻めの滑り！～野沢温泉村からレポート④～

本日、野沢温泉スキー場において、アルペン競技男子スラロームが行われ、佐藤海杜さん（1年）が出場しました。

会場の野沢温泉スキー場カンダハーコースは、標高845mから685mの標高差160m、51の旗門、50のターンが求められる難解なコースです。

全国から集まった総勢183名がこのコースに挑みました。海杜さんは61番目のスタートです。難解なコースだけあって、海杜さんのスタート前まで半数以上の選手がDNF（Did Not Finish：途中棄権）となるような状況でした。応援する選手の保護者の方々が手を合わせて祈るように斜面を見つめます。選手がコースアウトするたびに「キャー」という悲鳴があがりました。

いよいよ、海杜さんのスタートです。昨日のミーティングで、コーチから「最初の3つの旗門は大事にいこう。そこからリズムをつかって1本目は滑りきる」という指示が出ていました。

「1つ、2つ、3つ…」3つの旗門をクリアしました。急斜面から緩斜面へ、徐々にリズムにのってきました。上体が雪面に付くぐらい体を傾けてターンしています。「攻めている！よし、いけるぞ！」

しかし、25番目付近の旗門で、無情にもコースアウト。DNFとなり、2本目に進むことはできませんでした。

下に降りてきて家族に迎えられた海杜さん。悔しさでしばらく動くことができません。頬には涙がありました。「練習のときと（本番のときの）バーンが違っていて難しかった…」

ご家族の方は「この悔しさを、来年、再来年に繋げてほしい」とおっしゃっていました。

本気で練習に取り組み、自信もついてきたからこそその、悔し涙であったと思います。しかし、ご家族のおっしゃるとおり、人は悔しさを乗り越えようとしたときに真（シン）に強くなれるのだとも思います。何事も経験です。今回の悔しさを、ぜひプラスに変えてください。

今回、海杜さんから、多くの感動と多くの学びをいただきました。海杜さん、ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

明日は鼓白さんが女子リレーに出場します。最後の種目での健闘に期待しています。

【文責：校長 工藤雅史】

